

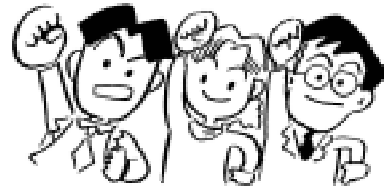
事務局の方へ お手数ですが、高教組分会長にお渡しください。<全教職員配布>

2003年11月19日

# 兵庫高教組 確定速報 No.7

兵庫県高等学校教職員組合調査部

## 8:00 拡大闘争委 妥結せず!



### ドキュメント 2003 確定山場

#### 16:00 12.3 第3波総決起集会

県庁前で、11.18 第3波決起集会が開催され、500人の組合員が参加。兵庫教組の岩本書記長が経過報告し、このままなら、42才の県職員は、年末一時金から16000円も減額、さらに不利益遡及が国並で強行されたら47000円減額、加えて共済の掛け金が総報酬制になったことで87000円一時金から徴収。あわせると、12月の一時金から約24万円もの減額になることを解明。民間の方が給与水準が高いのに、公務員給与を減額する理不尽を厳しく告発。兵高教組T中執、従組のY執行委員が決意表明を行い、高教組のK中執が決議文を読み上げ、満場の拍手で採択。集会スローガンを、県庁に向かって唱和し、採択。意気高くデモ行進。

#### 17:40~18:25 退職手当に関する交渉

冒頭、高井次長より昨夜の遅い時間からの「交渉」について謝罪。その後交渉団から、矢継ぎ早の質問。その中で勧奨で退職する人と60才で定年退職する人では、退職手当の額に逆転が起こることも明らかに。交渉団は、そもそも年度途中の制度変更は認められないと、再検討を要求。

#### 18:35~19:25 賃金確定第4回交渉

交渉に先立って、兵高教組津川委員長から、追加の署名が高井教育次長に。署名は合計に4479筆。高井次長が他府県の妥結状況や県税収が当初見込みを割り込むことを報告。その後給与改定について現時点で回答できる部分について回答。平成12年以来積み残している0.1月の一時金削減については今回の確定では見送ると表明。その他の手当関係、昇給停止、退職特昇など私たちの要求を反映した回答は一切なし。交渉団からは、失政のツケを職員の賃金切り下げで押しつけてくることは許されない、など怒りの声。再検討を強く要求。

#### 19:40~20:30 拡大闘争委員会

拡大闘争委員会は、各支部・単組三役と中央執行委員で構成される確定交渉の意志決定機関。集会在、500人の参加で大きく成功したことを確認。執行部から、確定をめぐる全国情勢、退職手当に関する交渉経過、第4回県教委交渉についての報告があり、独自要求の重点を確認。今後の行動を確認し、いったん散会。

#### 22:00~22:40 拡大闘争委員会

交渉の経過報告。退職手当の国並削減問題で、当局が「最終回答」を提示したが、確定交渉の中に退職金に関わる重要な問題が含まれているので、さらに交渉の推移を見て判断する方針を確認。高教組独自要求の問題で議論。議論の集中したのが、勤務時間問題と臨時教職員の問題。交渉団を励ます、意気高い討論となった。拡大闘争委員会はいったん休会とし、12時に再開することを決定。それまで、待機。

#### 0:00~0:10 拡大闘争委員会

従組から、交渉結果の報告。次回交渉の見通しはまだたっていないので、交渉団は高教組会館内待機。

#### 3:00~3:18 賃金確定第5回交渉

高井教育次長から回答。減額調整措置(不利益遡及)と12ヶ月昇給延伸については実施、それ以外の改悪措置については今年度は撤回、高教組独自要求については引き続き検討という内容。津川委員長は交渉団を代表して、「私たちの提出している要求について、成案が得られるように努力してほしい。なお、不利益遡及、12ヶ月昇給延伸については、私たちは認めることはできない。再度検討することを要求します」と述べ、継続交渉を要求。

#### 6:30~7:30 賃金確定第6回交渉

高井教育次長から「最終」回答。全体交渉部分は第5回交渉と結論は変わらず。持ち帰って検討することを津川委員長が表明。その後、兵高教組、兵庫教組に分かれてそれぞれの組合の独自要求部分について当局が回答し交渉。内容の詳細は、追ってお知らせします。

#### 7:45 ~ : 拡大闘争委員会

55才昇給停止を押し返し、リフレッシュ休暇、育休での前進を引き出すなど貴重な成果を得たものの、2年連続の不利益遡及を撤回せず、12ヶ月昇給延伸も回復しない回答であり、妥結せず、引き続き交渉を求めることを全会一致で確認。

徹夜交渉お疲れ様でした。全県の教職員のみなさん、ご支援ありがとうございました。

詳細はホームページでご覧下さい

<http://www.hyogo-kokyoso.com>

## 全県分会代表者会議

11月20日木曜日 2:30から 私学会館